

10月15日、弘前市主催、NPO法人青森県男女共同参画研究所企画・運営による公開講座が開かれました。男女共同参画の視点で地域活動をするためのノウハウを学ぶ公開講座3回目となる今回の講師は、ベテランアナウンサーの川口浩一さん。人前で上手に話すための方法について、ニュース制作の裏話や、男女共同参画の視点に立ったメディアの読み解き方などを例にとりながら、わかりやすく解説してくれました。



「人前で話すためには地道な努力が不可欠」と話す川口さん

資料集めは人念に

川口さんは、自分の伝えたいことを上手に伝えるためのポイントとして、言いたいことを整理すること、伝える情報を絞り込み、裏づけをとること、自分の考えをはつきりと持つことが必要だと語ります。

特に川口さんが普段から気

このほど弘前市民参画センターで、青森テレビアナウンサーの川口浩一さんを講師に迎え、上手なプレゼンテーションの方法を学ぶ講座が開かれました。多くの市民が会場に足を運び、下準備の重要性や、広く視点を持つことの必要性を学びました。

を何回でも熟読することとそれを怠ると、生放送の現場では取り返しのつかない事態も起ころうためです。また、生じた疑問はそのままにしておかず、必ずすぐに確認。思いついたことや印象に残ったことを書きとめることも欠かせない作業のひとつ。日々の暮らしがすでに情報収集につながつています。『関係する事柄を調べに調べつくすのが川口流。ときには本番で活かしきれないこともあるが、集めた情報は、自分の

「前後左右上下斜め裏返し、ときには鳥の目虫の目魚の目」ってなに?



## プロのアナウンサーの話し方に聞き入る参加者

なかで肥料となり、言葉の端々に余裕としてにじみ出てくるのだと思います」と三口さんは胸を張ります。

**ときには別の角度から**

もうひとつ重要なことは、自分と違う考え方への理解。「前後左右上下斜め裏返し」ときには鳥の目虫の目魚の目」という言葉を引用し、普段常識だと思っていることでも、別な見方をすれば全く違う事実が見えてくる例を身近な話題から説明。「目的に向かってある一点を掘り下げていくのも良いが、それでは偏った見方しかできなさい。自分のスタンスを持ちつつ、多角的にまんべんなく物事

## 効果的な「起承転結」

を見る、という姿勢を身につけてほしい。自分中心の価値観で物事を判断するのは大切だが、あらゆる角度から見つめて判断材料を豊富なものにしてこそ、「話に自信がみなぎって説得力が出る」と言葉に力を込めました。

とき、どのように読み解く」と  
ができるかを解説しながら、起  
承転結のつけ方を実演。  
「マスコミの現場も女性の  
視点が当たり前の時代。だが未  
だにメディアの中には性別へ  
の気遣いを欠くものもある。男  
女共同参画は、女性の側からの  
動きが多いようにみえるが、角  
度を変えてみると、男性が楽に  
なるための取り組みともいえ  
る。その意味でも、男性・女性  
双方の視点で語られていくこ  
とが必要」と結びました。

## 「日本一の弘前公園で」

造園技能士 福士よしこ



菊人形づくりは大変だけど、キレイと言つてくださるのがとてもうれしい



もみじと菊人形まつりの準備、草木の剪定、草刈り、肥料やり、樹木の雪吊りの上に王冠みたいなものがありますが、そのほかにもいろいろな仕事で毎日が忙しい忙しいと過ぎます。日本一の桜の公園、弘前公園の中で、季節と追いかけっこをしているような気分です。最近は、熊の店近くの金次郎さんにも冬衣を着せましたよ。

昔ながらの錠前で重い扉を開け、雪を入れて一年分のホコリを払います。真暗で急な階段です。もちろん電気はないので、出格子窓を開けて外の採光から櫻内部の木組みや太い梁、補強の筋運材、銃眼や矢傷など見ることができます。非公開なので普段は入ることができないので、この窓から満開の桜を見てみたいとも思います。

日本人の心を魅きつけてやまない花、桜。雪が溶けていつせいに咲き揃う美しさは格別ですが、弘前公園では、まだまだ雪深い二月に、剪定作業が始まります。

院五重塔や南塘グラウンドがあつて自然がいっぱいでした。それなりに、日々の暮らしに追われる中で、いつの間にか四季折々の感覚をどこかへ置き忘れている自分に気づいたのは、弘前公園で仕事をするようになつてからでした。道端やアスファルトの割れ目に咲く可憐な草花、凛として咲くひたむきな生命力。今の仕事は体力を使ひ切れど、緑のエネルギーをたくさんいただいているのだと思うようになりました。

そんな弘前公園の新年の仕事は文化財の清掃です。天守を除き、辰巳櫓、丑寅櫓、未申櫓、南内門、東内門、追手門、東門、亀甲門と



~草木や石などによるオブジェの大作~  
書の展示会場や講演会などの雰囲気づくりに協力しました

### 福士さんにインタビュー

この仕事をして何年?  
「13年目になるかしら」

なぜ造園技能士の資格を取ったのですか?  
「風土に根ざした伝統の技に憧れ

いつお会いしても、にこやかに微笑みながら、話をしてくださる福士さん。弘前市が以前開催した女性のためのエンパワーメント事業「きらめき女性塾」の卒塾生で、今年度は、男女共同参画推進活動講座にも参加しています。自然の中で体を使つて仕事をし、余暇の時間をを利用してさまざまな関心事に励むなど、その朗らかさと一生懸命がんばる姿は、津軽のおかさんをイメージさせるような、温かい方でした。

造園技能士とは、庭園の施工や庭木の選定など、造園に関する厚生労働省認定の国家資格です。緑に包まれた環境を創作し、守り、育てるために必要な知識や技術が造園技能であり、その技術をマスクしたスペシャリストです。

## 第2回「弘前市民参画センター交流まつり」

～あるよ！ 新しい発見 仲間をつくろう 交流のかけ橋！～ 



## 実施委員手作りの玄関かざり

10月29日(土)、「市民参画セントラル交流まつり」が開催されました。当日は、朝からあいにくの雨にもかかわらず多くの人が訪れ、会場の市民参画センターは終始にぎやかな声に包まれました。交流まつりは、今年の2月に続き2回目の開催です。今回のテーマは、「あるよ!新しい発見橋!」仲間をつくるうえで、交流のきっかけとして、日ごろセンターを利用しているグループが中心となつて実施委員会をつくり、自分たちの活動のPRやグループ同士のネットワークづくりができる場にしようと、数カ月をかけて念入りに準備を重ねてきました。そのかいもあり、さまざま企画は各団体の特色がいかさまでした。

# 市民参画センター 開館5周年記

のとなりました。市民参画センター開館5周年記念も兼ねて開かれた今回の交流まつり。琴と小鼓による祝いの曲の邦楽演奏で幕を開けた後、2階ふれあいホールと3階のイベントスペースでは地球温暖化について考えるビデオの上映や、男女共同参画をテーマにした人形劇の上演、「地域から家庭から男女共同参画」と題した鶴賀茂世さん（県男女共同参画推進委員）の記念講演、金融学習グループ「碧い空」主催の悪徳商法への対処についての講演、リコーカーダー演奏、弘前友の会によるくらしについての講演、アムネスティ・弘前グループによるビデオ上映など多彩なイベントがおこなわれ、来場者からは感心する声があり、ときには笑い声が響きました。また、今年度の弘前市主催事



リコーダーお目覚め部の合奏  
「G線上のアリア」は天下一品



『飯支度それって女の仕事なの？』  
私だって忙しいんだよ。手伝ってよ！



「妊娠ってなんぼ大変だば~」

ろさき環境パートナーシップ（HEP）21エコクラブでは、小学生が酸性雨測定実験をおこない、注目を集めました。社会福祉施設やグリーンツーリズムの活動をしている団体は、自分でつくったビーズ細工や、りんごなどの工芸品、野菜などの農産品を販売し、活動をアピールするとともに、買い物客との会話を楽しんでいました。まつり終了後に開かれた交流会では、参加団体や来場者が今後の活動に生かそうと意欲的に情報交換をして、互いに親交を深める姿がみられました。



「悪徳商法はこんな感じで近づきます」迫力の実演なのになぜか大爆笑

《保育サポーターサークル パピークラブ》

「寄り添う人がひとりでもいれば」

私たちパピークラブは、(財)21世紀職業財団の「保育サポーター養成講座」を修了した有志の集まりです。子育て中の親が、子育てをしながら仕事や社会参加の両立ができるように援助・支援する事を目的に、平成11年2月にサークルを立ちあげました。現在11人のメンバーで活動しています。

活動内容は、子どもが急に病気になっても仕事が休めない時やお母さんの通院や美容院へ行きたい時などの一時預かり、学童保育や塾への送迎、また講演会やコンサート・結婚式等開催時の集団保育などです。

さらにメンバーの資格や専門性を活かし、栄養相談や手作りおもちゃ教室の講師として出向したり活動の場を広げています。それに加えて最近では、障がい児の依頼が増えてきているため、それに対応できるように当グループが主体となり行政や医療機関と連携し研修会を開き、知識向上に努めています。

今後は、親の育児不安に耳を傾け、安心できる子育ての“伴走者”として活動していきたいと思います。



みが円トのす。つるが歩よす。な自  
である。マ店こも變通きつら転  
する今ト先去うのわるて秋40車  
か、は年で年樂もるだつ自か分  
今は一売の樂違だつたり。車冬弱  
今ど皿られ見発いきても、同天弱  
かんな11見はもきて見速じた気離  
樂発00い靴の見度道りにで歩  
陽し見0た屋で見え度道りにで歩

編集後記

本の紹介

著書名

『記憶が消えていく』



「できなくなることを嘆くよりも、できることを喜びたい」

著者 一関開治  
発行 二見書房

平成十五年、現職の町長を、「若年性アルツハイマー病」が突然襲った。五十三歳という若さで、その病気と向き合うことになった一関開治さんの不安や戸惑い、妻や子への想いを綴った本である。

「若年性アルツハイマー病」は働き盛りの人が発症するという意味において、経済的破綻につながることもあるし、将来の生活設計が壊れてしまうこともあるが、それにも増して残酷なことは「記憶が消えていくことだ」という。

「記憶が消えていく」というのは衝撃的なフレーズだった。愛する人たち、思い出、これまで培ってきた自分の知識や経験が、自分の中からだんだんと欠落していくことを考えるとやりきれない。

翌年一月、「若年性アルツハイマー病」であることをカミングアウト(公表)して、町長を辞任、現在の症状は中期の段階だという。病気をカミングアウトすることについては、ずいぶん迷ったようだが、そうしたことでも、町の人たちは一関さん夫婦を暖かく支えてくれたという。

今年に入ってからは、身の回りのこと、たとえば着替えや、風呂に入るときの行為が難しくなってきたという。症状が進んでいくことは、本人は十分自覚している。アルツハイマーという事実を冷静に受け止め、受容する。「なってしまったことはしょうがない」という本人の言葉があるが、そこには壮絶な困難があったことも確かだろう。

一関夫婦の会話が綴られている。妻の佳代さんは、先のことを考えてあれこれ悩むよりも、今の時間を大切にしたいと繰り返す。「できなくなることを嘆くよりも、できることを喜びたい」と。二人での日微笑んだ記憶も、二人での日泣いた記憶も、サラサラと消えたとしても、喜びや悲しみや楽しみを感じたその心までは決して消えることはないと信じている。

アルツハイマー病への認識がまだまだ不十分な現在、ぜひ読んでみたい一冊である。

弘前市民参画センター  
編集 メディア部会

〒036-8355

弘前市元寺町1-13

Tel 0172-31-2500 Fax 0172-36-1822

開館時間 9:00~22:00

休館日 12月28日~1月3日

お知らせ

弘前市男女共同参画推進活動講座公開講座を開催  
日 時 平成18年1月28日(土)14時~15時40分  
内 容

1. 受講生活活動報告 発表会(14時~14時40分)
2. 講評・講演「学びを実践に生かすために」  
(14時40分~15時40分)

講 師 佐藤三三教授(弘前大学教育学部長)

場 所 弘前市民参画センター 3階

入場料 無料 託児室 準備します(要申込)

問合先 男女共同参画室 0172-31-2500

(弘前市民参画センター内)

